東奥日報社提供

東　奥　日　報
2022年（令和4年）9月14日（木曜日）（18）

インドから菱刺し調査

染織物デザイン研究 カウール博士

こぎんも対象 日本各地の職人訪問

八戸

インドの伝統的な染織物（テキスタイル）デザイン研究者、マニート・カウール博士＝同国在住＝が8月下旬から本県を訪れ、伝統工芸の「南部菱刺し」と「津軽こぎん刺し」について調査を進めている。八戸市では県伝統工芸士・山田友子さんの元で南部菱刺しの技法や歴史、作品に触れ、理解を深めた。（千葉真由美）

カウール博士は、日本の伝統的な刺し子文化について調査研究を行うため、日本財団と石橋財団の助成を受けて初来日した。10月まで八戸市や弘前市のほか、山形、福島、岐阜、兵庫各県の刺し子職人を訪ね、調査を行う予定という。

八戸市には8月下旬から約10日間滞在。菱刺しが施された「前垂れ」などの衣類を収蔵する県南の施設数カ所を見学したほか、山田さんのアトリエ「南部菱刺し研究会・つづれや」で菱刺しの特徴的な模様や伝統技法について学んだ。

菱刺しの模様のうち「梅の花」と「杉綾」が気に入ったというカウール博士は「前垂れにある杉綾のジグザグのモチーフは、波が打ち寄せる種差海岸や杉並木に覆われた階上岳など八戸独特の風景に影響を受けたのかもしれない」と独自の見方を語った。

博士は8月30日、八戸工業大学で講演し、インド・パンジャブ地方の「プルカリ」など民俗刺しゅうの研究について語ったほか、自ら制作した作品を紹介。南部菱刺し研究に取り組む同大感性デザイン学部の川守田礼子准教授や学生らと交流した。

山田さん㊧から南部菱刺しの模様の刺し方についてアドバイスを受けるカウール博士

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」